

| | | |
|---|--------|-----|
| 科目名称： | 総合教養演習 | |
| 担当者名： | 能 雄司 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 演習 | 1 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| <p>若者の間にスマホとlineが花盛りである。友達同士で、暗号のような省略語やスタンプに代表される絵文字を使うなど、いとも簡単に用件を伝えたり、挨拶や装飾のない短文で用件のみを伝え合ったりしている。どちらも便利で結構なことではあるが、一方では、基本的な漢字を正しく書けない者や、生活の知恵としての諺や慣用語及び四字熟語を知らない者、また九九や通分、四則演算等の極めて基礎的な数学をも理解していない者も少なくない。学外の保育園や施設での実習に取り組まなければならない幼児教育学科の学生にとっては、特にこれらの基本的教養が必要であり、早くから対策に取り組む必要がある。</p> | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| <p>入学してから1年足らずで、取り組まなければならない学外の実習先での授業案の作成やレポートの提出などの要求に的確に応えるための読む・書く・計算力のような基礎的教養を身につけさせる。さらに、公務員（公立の保育所、施設等）を目指す者にとっては、教養試験として1次試験で実施される「一般知能」及び「一般知識」が必須の試験科目である。また、私立の保育園や幼稚園でも筆記試験が実施される場合はその内容がほぼ同じであるので、早くから最もウェイトの大きいこの科目の対策に取り組み、基礎的教養の多岐にわたる分野を、演習と解説を織り交ぜて確実に理解させることを主眼とする。</p> | | |

| 幼児教育学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|--------|---|------|
| DP (1) | 建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。 | |
| DP (2) | 優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。 | ○ |
| DP (3) | 幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。 | |
| DP (4) | 学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組む解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。 | |

| 評価方法/ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 幼児教育DP (1) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP (2) | 60 | 25 | 10 | 5 | 100 |
| 幼児教育DP (3) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP (4) | | | | | 0 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
|--------------|--------------------------|---------|
| なし | 《内容1》 | 《経験年数1》 |
| | 《内容2》 | 《経験年数2》 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |

| |
|----|
| 備考 |
| |

| 到達目標ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|------------------|--------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 毎回の授業課題(宿題)の取り組み | 毎回総てをやってきた | 1~2回抜けた | 3回~5回抜けた | 6回以上抜けた |
| 毎回の授業への取り組み | 毎回真剣に取り組み、説明をよく聞き、素早く理解する。 | 真剣な取り組み姿勢を感じる場面があり、努力しながらついて来ている。 | 特別な積極性は見られないが真面目に取り組んでいる。 | 時々睡魔に襲われるなどやや集中力に欠ける場面がある。 |
| 資料等配布物の整理・記入 | 要点を配布資料に色分けして記入し配布物はファイル化してある。 | 配布された資料に要点をメモ書きしてファイル化されている。 | 配布物はファイル化されていないが、ほぼ保管されている。 | 配布資料は一応保管されているが容易に取り出せない状態である。 |
| (毎時)小テストの結果 | 95%以上 | 75~94% | 50~74% | 49%以下 |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|--|---|-------------|
| 第1回 「総合教養演習」体系の理解,小テスト第1回(四字熟語1)⇒現在の学生の進路希望などをクリッカーで調査する | 事前に配布してある一般常識資料「四字熟語」をしっかりと練習しておく | 60分 |
| 第2回 命題・三段論法の解説と演習,小テスト第2回(四字熟語・故事成語)。演習問題を学生同士相談して解く。 | 事前に配布してある一般常識資料「四字熟語・故事成語」をしっかりと練習しておく。家庭課題 | 60分 |
| 第3回 n進法の解説と演習,小テスト第3回(文学・芸術・作曲家)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「文学・芸術・作曲家」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第4回 道順問題の解説と演習,小テスト第4回(診・慣用句1)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「ことわざ・慣用句1」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第5回 魔方陣問題の解説と演習,小テスト第5回(診・慣用句2)⇒演習問題を学生同士相談(ディスカッション)して解きクリッカーで答える | 一般常識資料「ことわざ・慣用句2」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第6回 文章理解「主旨・空欄穴埋め」,小テスト第6回(歴史)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「日本史・世界史」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第7回 文章理解「見出し・文章整序」,小テスト第7回(漢字書取)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「漢字書き取り・読み」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第8回 判断推理「対応関係・リーグ戦」,小テスト第8回(地理)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「日本地理・世界地理」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第9回 判断推理「暗号問題」,小テスト第9回(難読・難解漢字)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「難読・難解漢字」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第10回 判断推理「順序関係」,小テスト第10回(英語基本構文)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「英語の基本構文」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第11回 判断推理「位置・円卓」,小テスト第11回(読み誤り易い漢字)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「読み誤り易い漢字」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第12回 判断推理「うそつき問題」,小テスト第12回(理科常識)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「理科常識」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第13回 判断推理「親戚関係・トナリ」,小テスト第13回(同音異義語)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「同音・同訓異義語」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第14回 ブラックボックスの解説と演習,小テスト第14回(政治・法律)⇒学生同士相談(ディスカッション)して問題を解きクリッカーで答える | 一般常識資料「政治・法律常識」と本時の「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |
| 第15回 冬休み課題の解答と解説,小テスト第15回(反対語)⇒低正解率の問題はグループワークで学生同士で解いてみる | 一般常識資料「反対語」と「家庭課題」をしっかりと練習しておく。 | 60分 |

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、事前配付資料をしっかりと練習し記入しておく。更に、当日授業後の復習家庭課題に取り組む。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業時間内に行なう小テスト25%、家庭学習用課題5%・冬休み課題提出状況5%、授業に対する取り組み方(貢献・積極的関与、発表)5%で評価する。

課題に対してのフィードバック

授業内で実施した小テスト等プリントは、評価した後に返却する。
家庭学習としての問題演習は独力で解いて、次時に行う解答・解説時に確認してもらい提出を求める。

教科書・参考書

2018年度版 絶対決める! 数的推理・判断推理 公務員試験合格問題集 成美堂出新星出版社 発行
その他、授業時間内に演習問題や小テストのための参考資料を配布して解説する。